

實に撃ち込まれた47発の銃弾

二・二六事件 斎藤實倒れる

ファシズムや軍部勢力の台頭、国内最大のテロ
首都東京を震撼させた昭和史の岐路と呼ばれた事件

二・二六事件とは

昭和11（1936）年2月26日、「国家改造」「昭和維新」を掲げる陸軍青年将校たちが約1500人の兵士を率いて起こした反乱で、国内最大のクーデター未遂事件といわれています。目的達成のためには手段を選ばないという考えで、武力を使っても政党内・財界人・官僚を一掃し、世の中を改革しようとする皇道派。彼ら主導による軍国革新内閣を作ることを目的に、斎藤實内大臣（即死）、岡田啓介首相（生存）、高橋是清蔵相（即死）、鈴木貫太郎侍従長（重傷）、渡邊錠太郎教育総監（即死）、牧野伸顯前内大臣（生存）らを襲撃。首相官邸や警視庁・政府中枢機関を一時占拠しました。

やさしさと 厳しさと 凜とした気品と

日本女性の鑑 斎藤春子

激動の時代を實に寄り添い支えてきた春子
晩年は水沢で暮らし、この地で生涯を閉じました

仁礼家の1人娘として出生

春子は薩摩藩士・仁礼景範の長女として明治6年3月30日、東京で誕生しました（5人兄弟の1人娘）。小さいころから体が弱く牛乳嫌いだったことから、水あめで栄養をとっていました。7歳のころから琴・日本舞踊・生け花・茶道・習字・絵画などを習いました。明倫女学校、カナダの宣教師ミス・カートメル設立の東洋英和女学校で学び、当時女性蔑視や男尊女卑という考えがあった日本では画期的な女子教育を受けます。少女時代から習っていた英語も上達し、日本人としての伝統的な文化や美德の大切さを理解しながらも、西洋の新しい考えも兼ね備えた視野の広い女性でした。



水沢公園の実像完成であいさつする春子



総理大臣親任式に向かう朝 昭和7年5月26日



23歳の春子



愛猫家の春子が水沢・吉小路の斎藤邸で猫にえさをやる



昭和天皇即位礼に出席のとき着用した袴



實が海軍大臣のころの2人



大礼服（ローブデコルテ）の春子（19歳）



實、最期の1日

■2月25日夕方：アメリカのダルー駐日大使に招かれ、春子と晩餐会に出席。食事後、映画を鑑賞しました。会の楽しさに帰りが夜11時を過ぎました。
■2月25日午後11時30分：息子の斉さんは当時、青年将校たちの不穏な動きの情報を得ており、25日の夜に葉山の別荘に實と春子避難させようと考えていました。實の帰りが遅いので「まさか今晚襲われることはあるまい」と葉山行きを中止。
■2月26日朝5時5分：大雪の東京。青年将校210人が斎藤邸を包囲しました。屋内に侵入し2階で寝ていた實に107発を発砲。47カ所の弾傷を負って即死。實79歳のときでした。

水沢を永遠の地に

明治25年、春子20歳のとき實と結婚。實はこのとき35歳でした。欧米のマナーを身に付けていた實のスマートな姿は、春子にとって古い価値観に凝り固まっている男性の中でひととき目立って映っていました。
二・二六事件で實を失ったのち、太平洋戦争末期の昭和20年3月、春子は實の生まれ故郷・水沢に移り住みます。46年9月、99歳で亡くなるまでの26年間、多くの水沢の人たちと過ごしました。現在は水沢区小山崎の斎藤墓地に實と並んで静かに眠っています。
春子夫人は昭和38年、旧水沢市の名誉市民に推挙され、奥州市に引き継がれています。



事件当日、春子が着用していた血染めの寝巻き

實をかばう春子 撃つならわたしを撃ちなさい！

青年将校らの襲撃の際、春子は實をかばおうと、機関銃の筒先を持ち「斎藤を撃つならわたしを撃ちなさい！」と叫びました。實に覆いかぶさり、それを将校たちに強引に引き離されました。左右に大きく腕を広げ将校たちの前に立ちはだかります。その春子にもめがけて放たれた銃弾。3発が命中し、両手と背中から血が吹き出しました。

實、襲撃へ 驚くほどの重装備

實の暗殺のため斎藤邸を襲撃した青年将校たちが持っていた武器は、重機関銃4挺、軽機関銃8挺、重軽機関銃弾2000数百発、小銃約140挺、実弾6000発、拳銃10数挺、実弾500発。210人という数と重装備に、警護の警察官約40人は何もすることができなかったそうです。

實の妻・春子 ファースト・レディー

實はさまざまな行事に出席していましたが、春子もそれに同伴することが多くありました。春子の上品で見事なドレス姿や、堪能な英語での各国代表や同伴夫人との交歓は好感を持たれ「夫人外交」として、實を陰から支えていたといわれています。

品川港での出会い 伸べる手と支える手

明治24年、實は後の海軍大臣仁礼景範の転勤の出迎えに品川港に出ていました。景範の娘・春子がタラップに現れると整列していた将校たちがその美しさに色めき立ちます。振袖姿だったため春子はよちよち歩き。おぼつかない足取りでタラップを降りてきます。ハラハラしながら見ていた實。欧米でレディーファーストの習慣を身に付けていた實は意を決して手を差し伸べました。實の腕にすがるようにして陸に上がった春子。このときの出来事で春子は實を強く意識するようになったそうです。



写真家市川民劇「陽だまりのなかの春子さん」から